


令和4年度入学者選考用調査書の記入方法

静岡大学教育学部附属静岡中学校

1 一般的注意

- (1) 調査書は、静岡大学教育学部附属静岡中学校（以下「本校」という。）の様式にワープロソフト、手書きによって、受検者が在籍する小学校若しくはこれに準ずる学校又は義務教育学校の前期課程（以下「小学校」という。）の校長が作成する。用紙は日本工業規格A4縦型とする。本校ホームページから、調査書様式（Word、PDF版）をダウンロードして使用することができる。
<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/>
調査書の各項目記入欄の位置や大きさに変更を加えてはならない。記入する文字の大きさは、文字数に応じて変えてよい。斜線を引く場合は、該当欄の左上から右下に引く。なお、作成した調査書を複写（コピー）してもよい。この場合、複写後に記載者印及び校長印（職印）を押印する。
- (2) 調査書は、受検者1人につき1通を作成する。作成後は本校校長宛親展、厳封とし、受検者の保護者が出願書類とともに本校へ提出する。
- (3) 調査書の内容は、事実に基づいた正確なものでなければならない。また、重要なことや顕著なことについて、脱落等があってはならない。
- (4) 記入に当たっては、黒色インクを用い、原則として常用漢字、1，2，3等の算用数字及び現代仮名遣いを用いる。ただし、固有名詞はこの限りではない。学校名・校長氏名・記載者氏名・数値・記号等は、ゴム印を使用してもよい。

2 各項目の記入

(1) 基本的事項

ア 氏名、ふりがな (①)

小学校児童指導要録から転記する。日本工業規格文字コード外の漢字のため、印字が困難な場合は、該当部分のみを手書きとするか、その旨と正しい字形をH その他に記載する。

イ 性別

「男」又は「女」の文字を記入する。

ウ 生年月日

小学校児童指導要録から転記する。

(2) A 各教科の学習の記録

ア 観点別学習状況 (②)

(ア) 記入する観点別学習状況

第6学年における10月末までの観点別学習状況とする。

(イ) 評価の基準

観点別学習状況の評価の基準は平成31年3月29日付け30文科初第1845号「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」及び「静岡県公立小・中学校及び義務教育学校児童生徒指導要録の取扱い（令和元年12月）（以下「児童指導要録の取扱い」という。）」に準ずる。なお、「児童指導要録の取扱い」については、静岡市の場合は「静岡市教育委員会児童生徒指導要録の様式及び取扱い」を参

照する。

観点別学習状況は、小学校学習指導要領（平成 29 年文部科学省告示第 63 号）に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を「児童指導要録の取扱い」に示す各教科の「評価の観点及びその趣旨」及び「学年別の評価の観点の趣旨」に従い、教科ごとに A, B, C で評価する。この場合「十分満足できる」状況と判断されるものを A, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものを B, 「努力を要する」状況と判断されるものを C とする。

調査書への記入に当たっては、次に示す各教科の観点別学習状況における区分と観点>に従い、観点別学習状況(②)の1～3に、A又はCの評価の場合のみ記入し、Bの評価の場合は空欄とする。

<各教科の観点別学習状況における区分と観点>

全教科（国語，社会，算数，理科，音楽，図画工作，家庭，体育，外国語）

- 1 知識・技能
- 2 思考・判断・表現
- 3 主体的に学習に取り組む態度

イ 評定(③)

各教科の評定については、次のとおりとする。

(ア) 記入する評定

第 6 学年における 10 月末までのもの、及び第 5 学年のもの。

(イ) 評定の基準

各教科の学習の状況について、小学校学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を総合的に評価し、記入する。各教科の評定は、3 段階で表し、3 段階の表示は 3, 2, 1 とする。その表示は小学校学習指導要領に示す目標に照らして、「十分満足できる」状況と判断されるものを 3, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものを 2, 「努力を要する」状況と判断されるものを 1 とする。

ウ 学習に関する所見(④)

観点別学習状況を A と評価したものについて、これらのうち顕著な状況を具体的かつ簡潔に記入する。A のない場合は、総合的にみた児童の特徴を記入する。その際、児童の優れている点や長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるように留意する。

(3) B 総合的な学習の時間の記録

記入の必要はない。

(4) C 新体力テストの総合評価

記入の必要はない。

(5) D 特別活動の記録

ア 活動の状況(⑥)

特別活動における内容ごとに、第 6 学年における 10 月末までの活動の主な事実のみを記入する。その際、所属する係名や委員会名、クラブ名及び学校行事における役割分担等についても記

入する。なお、記入すべき事項がない場合は、「なし」と記入するか斜線を引く。

イ 特別活動に関する所見 (⑦)

児童の活動の状況について、「児童指導要録の取扱い」の「評価の観点及びその趣旨」を参考に、総合的な所見を記入する。その際、優れている点など、児童の特徴に関することを記入する。

(6) E 行動の記録

第6学年における10月末までにおける各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動及び学校生活全体にわたって認められる児童の行動についての特徴を記入する。

ア 状況 (⑧)

項目ごとに児童の行動について、「児童指導要録の取扱い」の評価項目及びその趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○を記入し、その他は空欄とする。

イ 行動に関する所見 (⑨)

児童の行動の状況について、総合的にみた場合の特徴及び指導上留意すべき事項を記入する。その際、児童の優れている点、長所、進歩の状況などを取り上げることが基本となるように留意する。

(7) F 出欠の記録

ア 第5学年及び第6学年10月末までについて記入する。出席停止日数は含まないことに注意する。欠席・遅刻・早退がない場合は「0」と記入するか斜線を引く。

イ 主な理由 (⑩)

第5学年及び第6学年10月末までについて記入する。欠席・遅刻・早退が3回以上ある場合は、その主な理由を記入する。2回以下の場合は「なし」と記入するか斜線を引く。

(8) G 諸活動の記録

第6学年10月末までにおける、次に示す児童の諸活動のうち、該当する部門の校内外の活動について、顕著な実績を記入する。なお、顕著な実績が認められない場合は、「なし」と記入するか斜線を引く。

(諸活動) 文化的活動、体育的活動、ボランティア活動、その他の部門における活動
(顕著な実績の内容等)

校内の諸活動では、顕著な実績を記入する。校外の諸活動では、各種大会、競技会、スポーツ少年団等での顕著な実績(順位や記録、ポジション(役割)など)を、賞状や認定書などをもとに、大会名や主催者などとともに正確に記入する。特技については、各種大会、競技会等での顕著な実績のほか、実用英語技能検定○級(○学年)、書道(○○会)○段(○学年)等の技術レベルについても、賞状や認定書などをもとに、大会名や主催者などとともに正確に記入する。

(9) H その他

次に示す事項について記入する。なお、該当事項がない場合は、「なし」と記入するか斜線を引く。

ア 進路、適性及び意欲等

進路、適性及び本校を志願するに当たっての学業に対する意欲等、特に記述を要すると判断し

た事項があれば、それを記入する。

イ 海外での就学状況

海外で居住していた経験がある場合、その国名、期間（令和〇年〇月～〇年〇月）及び海外で在籍していた学校名を記入する。

ウ その他特に記入する事項

本校校長に知らせておく必要があると思われる事項、面接（活動）に際し特に配慮の必要な事項、就学上、特に配慮を必要とする身体の疾病、異常又は既往症等を記入する。

(10) 調査書の証明

調査書作成年月日、小学校名、記載者氏名及び校長氏名を記入し、記載者印及び校長印（職印）を押印する。小学校名は正式名称で記入する。

(注) 保護者の希望により、学力検査及び面接(活動)検査等の「受検上の配慮願い」(様式1)や「受検辞退届」(様式3)の作成を依頼される場合がある。